

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600202		
法人名	有限会社 幸慈愛福祉事業振興会		
事業所名	グループホームはまなす石狩 (はまなす石狩)		
所在地	石狩市花川北6条1丁目68番地		
自己評価作成日	平成24年1月18日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177600202&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 3 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとに、イチゴ狩り・さくらんぼ狩り・ぶどう狩りを楽しみ、果物を思う存分味わった後にも、さくらんぼやぶどうの木の下で職員が作った手作りのお弁当に舌鼓をうちながらのんびりと時間を過ごしていきます。
桜や藤棚、芝桜などのお花見、紅葉狩りは海岸線のドライブを楽しみながら出かけています。
開設当初から行っている一泊旅行は、ご家族もお誘いして1年に一度の行事として続いています。
今年度は伊達時代村を楽しんだ後に登別温泉に宿泊してきました。時代村では、江戸の町並みを散策しながら忍者劇や花魁の舞台に拍手喝采してきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、開設して第Iユニットは10年、第IIユニットは9年が経過しています。行政関係者や町内会の方々と、連携が構築されています。市主催の福祉祭りで餅まき行事では、事前にホームに餅を届けて頂いたり、町内会の方々からは、ホーム周辺の除雪や災害時等での協力支援があります。職員は、利用者が看取りの状態にあっても、食事摂取や二人介助での入浴支援を行うなど、利用者への寄り添いに家族は深い感謝の言葉を表しています。代表者や管理者はサポート役に徹し、職員の資格取得支援や働きやすい環境を整備しています。職員はその思いに応え、自己研鑽に励んでいる「グループホーム はまなす石狩」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内何か所かに掲示し職員がいつでも見られるようにしている。また、朝の申し送り時に確認し合うようにしている	開設時の理念を見直し、地域密着型の意義を含んだ理念を策定して、ホーム内の随所に掲示しています。日常業務や会議等で理念を振り返り、職員の意識統一に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域、町内会の行事に積極的に参加し交流を図っている	市や町内会の行事（盆踊り、福祉祭り、花植、清掃活動等）には、利用者と一緒に積極的に参加しています。町内会向けの会報を回覧板での周知や、介護相談受け入れ等で、認知症ケアの啓発を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター活動や会報で認知症とはどういうものかを知ってもらうよう発信したり働きかけている まちかど介護相談所として介護相談に気軽に来ていただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議で、ご家族や町内会長、民生委員、支援センターの方々の意見を聞き、サービスの向上につなげている	会議は、町内会、家族、行政の方々の参加の下、2ヵ月毎に開催し、ホームの質の確保に繋がる意見交換が行われています。提案を受け、災害時に備え、家族の連絡先を同意を得て、町内会に提出しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者、福祉課担当者とは常に連携をとりながら協力関係を築いている	市庁舎が近隣にあることから、行政担当者とは相談や情報交換、会議等で頻繁に行き来する機会があり、連携が構築されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止推進研修会に管理者が必ず参加し、虐待防止の勉強会などを行い、職員にも理解してもらうように努めている。また、日々の業務の中でユニット責任者や管理者がその都度指導している	管理者は、外部研修で禁止の対象となる具体例や、高齢者虐待防止関連法を学んでいます。伝達講習や日常業務に於いても職員の共有認識を図っています。玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアの実践に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてケア会議、職員会議等でふれている。また、実際に制度を利用している入居者様がいらっしやり連携もはかっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時や解約時に利用者やご家族様に十分に説明し理解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口になり、その都度対応している。また、ホーム内にも意見箱をもうけている	利用者の要望は、日々の関わりや家族からの情報を参考に把握しています。家族からは、来訪時や意見箱の設置、内部・外部相談窓口の周知等で汲み取りに努め、課題は迅速に解決策を検討する体制を整えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談を行ったり意見や提案を聞くように努めている	代表者や管理者は、サポート役に徹しています。就業環境の整備を含め、職員の意見や提案を運営に活かしています。提案を受け、ホーム内の随所に手摺りが設置されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入したりと職務環境の改善や職員のやりがいなどの向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にできるだけ職員を参加させて勉強してもらっている。 社内研修は年数回程度		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	石狩GH連絡会の勉強会、交流会に参加したり、地域ケア会議にも参加させてもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者やご家族との面談の中で、困っている事や要望を聞き、ケアにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築くために、どんな些細なことにも耳を傾け、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人からの情報を基にカンファレンスを開き、必要としている支援の見極めをし、サービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活することを基に、出来る事、出来ない事を見極めて支援する		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を築くために、来訪の際や電話にて近況報告をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの友人、知人からの手紙、電話などのやり取りが気軽に出来るように支援している	友人・知人の訪問受け入れや、利用者の希望に応じて、手紙、電話、年賀状のやりとり、馴染みの場所への外出支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活をともにする仲間として意識しあえるよう、生活リハビリやゲームをしたり談笑の場を設けたりと、一人一人が孤立しないように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も管理者、居室担当が窓口になりお見舞いに行ったり、その先のフォローをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向に配慮した個別ケアに努め、意向が伺えない方は、その人らしさを第一にケアの方向性を考え支援する	利用者の思いや意向は、家族の意見を参考に、職員の気付き等で把握に努めています。困難な場合は、利用者の様子を窺いながら、思いに近づけるよう、職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境などを家族の協力を得て把握し、ケアに生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、その日の気分や状態、体調を考慮し日課の調整を行って支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際に更新の介護計画を話し合い作成している。また、家族への説明の時に意見を聞き、介護計画に反映している	介護計画は、日々の関わりの中で利用者の希望を収集し、家族、医療関係者、職員の意見や提案が集約されています。介護計画と日々の記録は、連動されていますが、更なる記録の整備を検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し、職員間で情報を共有している。また、職員の意見を反映する為に個別ケースの最後に記入用紙をつけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろんな情報をキャッチしサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の子ども盆踊りに参加したり、図書館に行ったりして豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族等の希望を大切に主治医の継続や変更等の個別の対応をしている。また、診察の同行、情報提供に努め関係作りを行っている	24時間連絡体制の複数の医療機関による往診が、ユニット毎に月1～2回実施されています。医師の連携により、柔軟な診療体制が図られています。利用者の状態に合わせ、都度受診支援も行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回定期来設他、必要時、24時間の連携で、意見やアドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の紹介による緊急時の入院先との連絡、情報提供 入退院時の説明時には同席し、その後の健康管理につなげている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した時についてホームのありかたを説明し理解してもらおう。また、早い段階で家族との話し合いをもちながら医療機関とも相談をして方向を定める。三者でも十分話し合う	重度化や終末期への対応指針を作成し、同意書を頂いています。過去に看取りがあり、その時には、医療関係者、家族と、都度協議を重ね、方針を共有する体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修を受けたり、勉強会をおこなっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練を消防署の指示にもと行っている。町内会長、副会長、民生委員にも協力していただいている。 町内会の防災訓練にも職員4名参加している	消防署や地域の方々の協力を頂き、昼夜想定避難訓練を実施しています。課題は、次の訓練に活かしています。災害備蓄品、避難場所も確保していますが、市主催の防災訓練にも参加を予定し、防災対策の強化に努めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人が人生の大先輩であるから一人一人の人格を尊重しケアしている	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を念頭に、言葉掛けや着替え、排泄、入浴などには、十分な配慮を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に自分らしく暮らしていけるよう押しつけのケアはしない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアの押し付けはせず、その日の一人一人の体調や精神面を把握し、その日をどのように過ごして頂くかを相談し支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体ではあるが、季節感や外気温などは注意し、支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割として、食事の準備、後片付け、食器拭き、収納をお願いしてその人の日課として職員と一緒にやっている	食事担当の専門職員をユニット毎に配置し、利用者の好みや栄養バランス、彩りに配慮した献立を各々作成しています。利用者の食事形態に合わせ、ゆっくりと時間をかけるなどの支援が行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量、水分量を職員全体で把握し、気になる人はチェック表に記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを促したり介助したりして、必ず行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用の方も定期的にトイレ誘導したりと、出来るだけトイレでの排泄を促し支援している	排泄チェック表や仕草などを捉え、トイレでの排泄支援に努めており、トイレに間に合わない事を想定し、居室にポータブルトイレを備えています。使われることは殆どありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、朝の水分、乳製品、運動と出来るだけの支援をこころがけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に配慮し、出来るだけゆったりした気分で入浴していただけるように支援している（曜日は設定している）	午前9:30～午後3:30の間で、週2回の入浴支援が行われています。利用者の状態に応じ、全身シャワー浴や清拭等で清潔保持に努めています。ユニット間での入浴も柔軟に対応しています。二人介助で、利用者全員が浴槽に入るようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や温度などに常に注意したり寝具の調節をおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容は職員全員が把握できるようにケース記録に綴じ、自由に見る事ができる。また、薬の変更時には必ず連絡帳に記入し確認してもらう		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技、生活歴、仕事、趣味、嗜好に配慮し日々の生活の中に生かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に外出に取り組んでいる。季節感のある行事を行っている	利用者の希望を受け入れ、散歩やホーム前庭での日光浴、喫茶店でのひととき、買い物、ドライブ等の支援に努めています。年間の外出行事を企画し、果樹園、花見、伊達時代村、家族参加の温泉一泊旅行等を実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はほとんどいないが、買物の際には自分で支払う事を楽しんでもらう工夫をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話を利用してもらい、家族や知人等への連絡はいつでもとれる体制を整えている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体がほとんどバリアフリーであり、生活範囲内は手すりを設置してあり移動しやすくなっている。どこの窓からも外が見られ季節の変化がわかるようになっている	改造型のホームですが、至る所に利用者が暮らしやすい工夫が施されています。季節の花を生けたり、空調や清掃にも配慮が見られ、居間は少々手狭ですが、利用者同士が密な関係になっており、安心感のある空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブルを多く配置し個々、好きなどで過ごせるよう配慮している。 サンルームは自由に利用できるようになっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、好きなポスターを貼られたり、好きなものを置いたり工夫している	居室には、戸袋やロッカーが設置されています。馴染みの家具や調度品、趣味の物が配置されており、居心地の良さが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内での移動はしやすく工夫しており、一人一人を見守りその人らしい生活を送ってもらっている		